

幕あい

横浜演劇鑑賞協会

第330回観劇会

2025年9月25日

其の女



表紙絵・金沢

長谷川・長谷川早由

〜渋谷はるか一人芝居〜

其の女

Nana Produce



日時 2025年9月25日(木)13時開演

18時30分開演

26日(金)13時開演

会場 県民共済みらいホール(桜木町)

上演時間 約80分 (休憩なし)

脚本 古川 健 (劇団チョコレートケーキ)

演出 日澤雄介 (劇団チョコレートケーキ)

舞台監督 西廣泰 / 音響 佐久間陽一 (POCO) / 照明 青木大輔・小池みのり

美術 加藤ちか / 演出助手 朝倉エリ / 衣裳 藤田友 / 方言指導 瀬山英里子

企画 喜昇倶楽部 高橋昇 / 企画・製作 Nana Produce

あの時代の
広島を生きた
一人の女性の、
悲しみと喜びと
愛情の物語

●担当サークルのまとめ会のお知らせ

10月3日(金)10時30分～・18時30分～ 事務局

*アンケートの集計、担当しての感想、気が付いたところ、舞台の感想などを交流します。

ぜひご出席ください。

渋谷はるかさん・プロフィール

横浜市立下野谷小学校

横浜市立瀬田中学校

神奈川県立神奈川総合高校

2004年 文学座付属演劇研究所入所

2009年 文学座座員 現在に至る。

2018年 On7 (おんな)公演「その娘、熱線に焼かれ」公演

今回の「其の女」はそのスピンオフ。

2作品とも劇団チョコレートケーキの古川健の作、日澤雄介の演出。



渋谷はるかさんからのメッセージ

皆様、こんにちは。渋谷はるかと申します。

この度は、横浜で『其の女』を上演できます事をとても嬉しく思っています。

私は生まれも育ちも横浜で、今も横浜在住です。山下公園をぐるぐる歩きながら台詞を覚えたりしています。(笑)

たった独りで舞台に立つというのは、正直震えるような思いもするのですが、この『其の女』を、劇場で皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

「原爆乙女」渡米してケロイドの治療へ出発！

1955年、原子爆弾でケロイドで傷ついた身体の治療のためにアメリカに向かった10代後半から30代前半の25名の女性。彼女たちはアメリカ人の医師により最先端治療を受ける為に渡米。

医師たちは無償で治療にあたり「人格者」「博愛主義者」と称された。またホームステイに携わってくれた民間人の方々も「優しさに溢れていた」というエピソードが語られてきた。

それでも、「原爆乙女」たちの傷痕は残り、心の傷は癒されることはありませんでした。



25日(木)1時の部の終演後、客席交流会を開催します。

出席予定者は作者の古川健さん、演出の日澤雄介さん、主演の渋谷はるかさんが参加してくださいませ。

終演後そのまま客席でお待ちください。



会員総会のご報告

7月13日(日)、参加者31名、欠席サークル63(非サークル102)で、議長一任で会員総会が行われ、観劇会が年間5本になることが決まりました。

冒頭、石原会長より、厳しい運営状況が続いていますが、会員が単なる観客ではなく、観劇会の運営にも携わって作り上げている会なので、充実した観劇会を続けて行きましょう。という挨拶がありました。

続いて運営委員長の吉倉さんより、議案書に沿って作品や観劇会についてなど昨年度の報告がなされました。

現在の日本の状況は厳しく、物価高騰などで演劇に足を運ぶのも難しい時代になっており、一時は5,000人を超える会員がいましたが、今は625人ほどに減っています。

そこでサークル懇談会から話し合いを重ねてきましたが、今年度の総会で観劇会本数が6本から5本に減ることになりました。毎年ごとに減少し続ける会員数、それに伴い財政規模の縮小。とうとう現在の会費額と会員数では年間6本の観劇会を維持する事が難しくなっていました。

2023年度の支出は21,581,725円、2024年度も支出は20,849,283円。それに対し、収入は2024年度は19,373,590円と収入が支出を下回ってしまいました。2025年度を推量すると現状の会員数での総収入予算は17,166,000円です。この予算で年6本の観劇会を組むと上演料だけで400万円ほど不足してしまうことになります。年5本の観劇会、他の経費を削減して、ようやく予算を立てることが出来ました。

会員数の減少が収入減に直結してしまい、財政運営を苦しめています。なんとか年5本の観劇会を維持し、会員を少しでも増やしていく取り組みを今年はしていきたいと思えます。



そこでホームページ(ウェブサイト)を改善し、充実を図っていきます。

「ロコミ」に頼ってきた現在の宣伝方法を見直し、SNS等を活用した宣伝方法に取り組んでいきます! 皆さんで盛り上げていけるようにこれからも改善を図っていきます。是非、ご活用ください!



スマートフォンで左のQRコードに向けて、カメラを開いてください!

シャッターを押さずに、画面に出てきた【黄色い枠】や【QRコード読み取り】等の枠を押します。

すると別画面が開き、『横浜演劇鑑賞協会』のホームページをみることが出来ます!

やり方がわからない等ありましたら、お気軽にお聞きください。

この人を訪ねる 6 菊谷節夫さん

会員歴も20年と長いが、横浜市従業員組合の書記長、神奈川労連の役員を歴任し、神奈川県平和委員会の代表。そして神奈川県原水協の代表理事でもある菊谷節夫さんは神奈川県を代表する活動家です。

「其の女」の観劇を前に、色々聞いてみました。

まずは神奈川県原水協の歴史を教えてください—広島・長崎の原爆投下から9年後の1954年に「ビキニ環礁」で原爆の1000倍という威力の水爆実験が実施されて「第5福竜丸」を初め、日本のマグロ漁船が死の灰を浴びて、原爆症の症状を発症しました。翌年の1955年に第1回原水協禁止世界大会が開催されました。「日本原水協禁止協議会」もこの年に結成され、ノーベル平和賞を受賞した「日本被団協」が翌年の1956年に結成されました。

核をめぐる世界の動きは揺れ動き、落ち着きを見せていませんが—だれも核戦争が起きたらいいと考えている人はいないと思います。現実化すれば地球は崩壊してしまいます。それでも核兵器は12000発に増大し、「核兵器を使用するぞ」「だったら対抗するぞ」という脅しの眠みあいが増えています。日本も「軍備拡大やむをえない」という日米政府の方針を国民に浸透させようとしています。

「核兵器禁止条約」に署名する国も100ヶ国近くに広がっていますが—核廃絶の動きと核による威圧がせめぎ合っています。平和の問題は重要な時期になってきています。戦争の悲劇から遠く離れた世代が多い時代になり、戦争によって人権が侵されるという実感も薄れていますから、若い世代の関心を高める運動が必要です。日本も「核兵器禁止条約の締結国」にならなければいけません。

軍隊が排出する二酸化炭素の量が世界の5.5%を超えて気候変動にも大きな影響を与えています。『こんな時期に戦争なんかしていいのか！』心から叫びたいです。

今回の「其の女」という観劇会は原爆でケロイドを負った若い婦女子を題材にした舞台です。アメリカの医師やアメリカ国民の優しさが美談として伝えられていますが—原爆投下直後にアメリカは「調査委員会」を設置して原子爆弾の効果や被害状況を調べたのですが、1975年に日米が協力して調査委員会が発見するまで調査資料は封印されてきました。「原爆乙女」の治療も形成外科手術の実験材料を取得することが目的だったかもしれませんよ。

取材を終えて、加藤周一氏の『戦争の準備でなく、平和の準備を』そして、ネルソン・マンデラ氏の『最良の武器は座って話すことだ』という言葉に改めて強く頷いてしまった。

広報部・中山





観劇会で取り上げた日穂公演の足跡

第1弾 2022年9月 会場・県民共済みらいホール

「月虹の宿」

月虹とは月の光で出来る虹の事。この虹は願い事を叶え得るといふ。
創業150年の古びた温泉宿が舞台。帰郷した主人公の、娘の安楽死を巡って葛藤する家族の物語。

第2弾 2023年8月 会場・横浜市教育会館

「オミソ」

昔ながらの老舗の味噌屋が存続の危機を迎え、その苦境を乗り越える家族の物語。

第3弾 2025年 10月 会場・関内ホール・小ホール

「月の海」

今回は母親の介護という身近な話題を軸に「家族」や「いのち」を包み込むように温かく描いた、再生の物語。

望月家には介護を必要とする母がいて、娘の静が同居している。父は亡くなって、弟の豊は行方不明のまま5年が過ぎた。

父は「月」が好きで娘と息子の名前を「静の海」「豊の海」に因んで命名した。そんなある日、近所を徘徊する泥棒が望月家に忍び込んでくるのだが……。



昔の豊の作文を読む静

観劇日 10月29

*29日昼の

30

会場／関内ホール

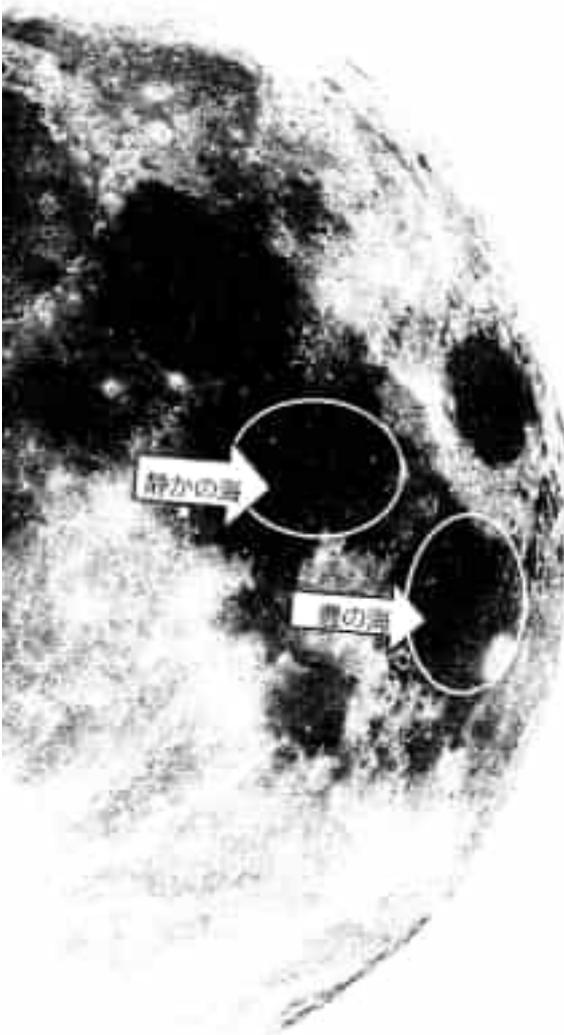
休憩時

*担当者の皆さんによる「まとめ



企画・脚本/岩瀬顕子 演出/たんじだいご

出演者・内浦純一・岩瀬顕子・剣持直明(だるま座)・堂免一るこ・永滝元太郎
中三川雄介・塚本小百合・野川大暉・たんじだいご



9月2日(火)・「月の海」の観劇会担当サークルの集いに脚本・主演の岩瀬さんをお迎えしました。演じると共に戯曲を書くに至った経緯や学生時代の経験などを伺いましたが、まずは「月の海」に関して。初演の2016年はお母様が急逝された年で、母娘の関係や介護職の方々のお話を元に書かれた作品。

お母様とのお話に声を詰まらせシーンもあり、お気持ちが伝わってきました。だるま座の剣持さんが介護の見習い役で出演。毎回違うアドリブに笑いが起きるようで、どんなシーンなのか？お楽しみに！

「月虹の宿」を観て音楽作らせて欲しいという申し出を頂き、以来日穂の音楽を担当している林ゆうきさん。かなり著名な方で、ドラマ、映画、ゲーム等多くのヒット作がある方。「朝が来た」「緊急取調室」etc…

アメリカでの学生時代、戦争を体験された元兵士方の話を聞き、残すということとされていて、帰国後も続けているそうです。

「戦争はやってはいけない」という強い思いを持ち続けていらっしゃるそうです。

広報・和田

日(水) 13時・18時30分
部終演後・出演者との客席交流会を行います。
日(木) 13時

小ホール

90分(休憩なし)



豊が大好きなプリンを爆買いした静

においで下さい。11月4日(火) 10時30分～・18時30分～

四月二十五日の担当打合せには、劇団代表の藤原啓児さんが来局し、これまでとは異なる演出であると熱弁をふるい、参加者の興味を引きました。

座席割り・前日作業・搬入と進み、いよいよ七月一日の本番です。

疑った舞台装置や、たくさんの小道具によって、一九三〇年のセントルイスの貧しいアパートが、目の前に現れました。

足が不自由な事を気に病み、自分の殻に閉じこもっているローラ、心ならずも靴倉庫で働き、家族の暮らしを支えているトム、そして若い頃を忘れられずにいる母アマンド。この三人の生活がローラの婚活を中心に展開していきます。

女性役も俳優が演じる珍しい劇団ですが、違和感が無かったという感想や、女性役に感心したという評価が多かったです。

一日の昼の部の終演後の客席交流会には、いつもよりも多くの会員が参加してくれました。女性役を俳優

が演じることに、皆さん興味を持っていて、質問は？と問いかけると、次から次へと手が上がり、時間が足りるか？と嬉しい心配をしたくらいです。

出演者も四人全員登場し、丁寧に答えてくれて、充実した客席交流会になりました。

三回の観劇会もあっという間に終わり、次は搬出作業です。

搬入作業では、最初に軽い箱を運んだだけでラクでしたが、搬出ではしっかりお手伝いしたので劇団に協力できたと思います。

七月八日のまとめ会では、午前中より夜の回のほうが参加者が多く、いろいろな感想が出ました。

テネシー・ウイリアムズ自身の家族関係を投影した自伝的な作品なので、難しかった。また、ラストがハッピーエンドではないので、暗かったという感想もありましたが、総じて、テネシー・ウイリアムズの追憶の世界に浸ることができたようです。ローラの健気さが印象に残りました。

(鶴見・エスペランサ 石原亜美)

昼公演の終了後の客席交流会での一問、一答

Q-女性の方に、所作などで難しい所はありますか？

A- (ローラ役) 普段は履かないスカートのすそさばきが難しいです。

A- (アマンド役) 長年、女性役を演じていると、慣れてきます。

Q-長い髪がとても自然ですが、地毛ですか？

A- (ローラ役) カツラです。製作を精んでいるところが、一本一本、手で揃えて行く丁寧な作り方なので、自然な感じが出ているのです。

Q-セットが素晴らしいです。小道具もとても多くて大変そうですが？

A- (ジム役) 美術の人が準備してくれて、当時の雰囲気を出しています。

Q-セリフの量がとても多いですが、どのようにして覚えるのですか？

A- (トム役) 何度も繰り返して覚えるしかありません。この作品は今回再演なので、記憶が強っていたのですが、初演の時は本当に大変でした。

Q-最後にユニコーンの角が取れてしまうのには、どんな意味があるのですか？角は何の象徴ですか？

A- (ローラ役) 角はローラのコンプレックスを意味していると思います。コンプレックスを手放して、ユニコーンが普通の馬になったように、ローラも普通に近づいて行くのだと思います。

Q-ローラはこの後、どうなっていくのでしょうか？

A- (ローラ役) すぐに変わるの難しいでしょうが、少しずつ前向きに変わって行くと思います。自分は、またタイプの学校に通うのではないかと考えています。



終演後に舞台の出演者と客席の交流会

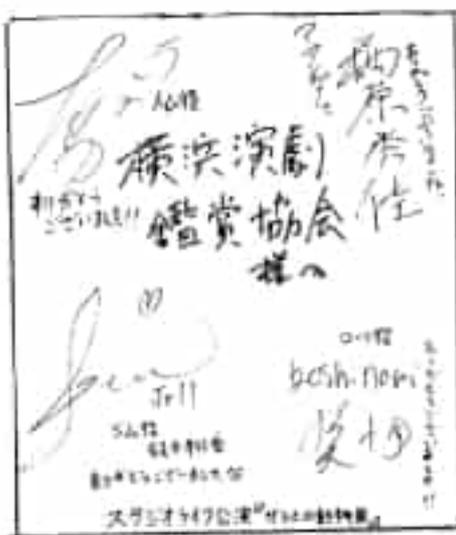
ガラスの動物園

心に残った台詞・シーン

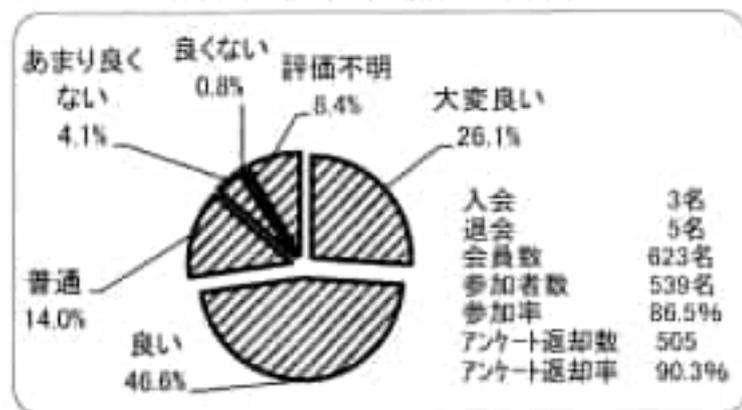
- ▼光をかざすときれいなので、光が好きだから。
- ▼ユニコーンが壊れたシーンと、ローラたちの口づけのシーンです。
- ▼ジムとローラのダンスシーンがとても良かったです。
- ▼コンプレックスの克服は難しい。ローラが乗り越えたが。
- ▼アマングとローラが月にお祈りをするシーン。
- ▼声がすてきでした。
- ▼角の折れたガラスの馬になって友だちができたでしょう。
- ▼ユニコーンの角が取れて普通の馬になった手術をしたようなものね。
- ▼熱いコーヒーを飲みながら鳥のようにさえずり合うところ。
- ▼誇りを持つ。
- ▼「コンプレックス」、「個性」、考えさせられました。
- ▼最後のローソクを消すシーン。
- ▼時の隔たり程遠いものはない。
- ▼誰にでも長所はあるものだ！

- ▼自信のなさ、コンプレックス、捨てていく。
- ▼人間だれでも長所が一つある。
- ▼ローソクの生の火、初めて舞台でみました。効果的です。
- ①この先の幸せを・・・
- ②角が取れて普通になった。
- ▼二人が少しづつ距離を縮めていくところがとても良かった。コンプレックスは皆が持っているが・・・
- ▼ローラを励ます数々の台詞。
- ▼ローラがガラスのユニコーンをジミーの手に握らせるシーン。
- ▼ブルーローズ。
- ▼トムがローラに前向きに生きるための分析をしている場面。
- ▼どこにいてもローラが忘れられない家族の重たさを感じさせられるシーンだった。
- ▼ユニコーンの角が折れたところ、悲しかったけどローラの言葉が良かった。
- ▼「きらい」「びっこ」差別用語とても気になりました。
- ▼お母さんがよかった。
- ▼人の目を見て、自信をもって生きるのだ！
- ▼人は良い所一つはある。自信をもって生きる事。私もそう思っています。

- ▼「消してくれ そのローソクの火を消して」
- ▼軸くんだ！
- ▼私も息子（自閉症）に怒らず豊かな心で接したい。
- ▼（現実は一まったくうまくいかないことばかり）
- ▼トムがローラに自信を持たせる話。結果は結ばれないが、勇気と自信が持てたこと。
- ▼コンプレックスは誰でもあるが、長所を見つけたことが大切。
- ▼皆さん男性だったとは！。当時の生活、考え方が伝わってきた。
- ▼舞台後の交流会も楽しかった。さすが観覧の方々、質問、感想よかったです。
- ▼誰もがその人なりの美しさを持っている。
- ▼個性が大事。



「ガラスの動物園」アンケート結果



***お願いです**
 客席でタブレットを開くと光が発せられます。観劇の妨げになりますのでやめましょう。
 許可のない舞台の撮影は禁止です。ご遠慮ください。

次々回観劇会
第332回観劇会

ONE OR 8 公演 ママごと

作・演出 田村孝裕



(テアトル・エコーによる初演)

<あらすじ>

若い二人の、結納の日。
互いの家族が初めて顔を合わせる食事会に現れた四人の母親たち。
お互いの思感がぶつかる。
子供たちは思った。これはきっと「おままごと」なのだと。
田村孝裕の、家族を説く問う物語。
それぞれの本心と本音...

<出演>



佐藤B作



重田千穂子



安達忍



岡のりこ

日時：1月29日（木）13時開演

場所：関内ホール 大ホール

来年の観劇会の担当をどこにしましょう！

9月に配布したアンケート用紙の下記作品を紹介します。観劇担当希望を決めて下さい！

未定の部分が多いのですが、検討して希望を決めて下さい。

10月の会費納入時期が「其の女」の会場でアンケート用紙を提出してください。

1月 ONEOR8 公演「ママごと」 1月29日(木) 午後1時開演予定 関内大ホール

作・演出／田村幸裕

結納の席の食事会が始まろうとしたその時、一人の女が現れる。
その人は婚約者はなの生みの親。

育ての母親は父の後妻だが、愛情いっぱい育ててくれた。店の従業員も巻き込んで母親同士の思惑がぶつかり合う。「ママごと」、それぞれの本心と本音が入りまじる。笑いの中に人間模様を鋭く活写する傑作喜劇！

主演・佐藤B作、重田千穂子、安達忍、岡のりこ



4月 ミュージカル「舞台に立ちたい」 4月上旬予定

脚本・ハマナカトオル 作曲・山口瑛也 ピアノ・久田菜美

ミュージカル女優の3人の10年間にわたる友情と人生を笑いと涙で描いたミュージカル。

主演・荻谷川ゆり、田宮華苗、五十嵐志保美



7月 一人芝居を予定

9月 文化座公演「命どう宝」・候補作品

作・杉浦久幸 演出／鶴山仁

戦後の沖縄復興と日本復帰に生誕をかけて戦い抜いた不屈の人間像が今蘇る。

文化座渾身の舞台。

主演・佐々木愛・白幡大介・藤原草寛・姫池実加



10・11月 青年座公演「夫婦レコード」・候補作品

作・中島淳彦 演出・黒岩亮

長年連れ添った妻の急死に脱帽する父にどうして接して良いかわからない人の娘達。娘たちの思い出話から父が知らない母の姿が・・・真しくって、どこか懐かしい家族のドラマ。

主演・佐藤祐四、安藤謙、市橋恵、角田萌果



2025年10月 スケジュール

10月		
1日	水	10月会費受付・「月の海」座席シール発行
3日	金	10月会費受付・「月の海」座席シール発行・「其の女」まとめ会 10時30分～・18時30分～
4日	土	10月会費受付・「月の海」座席シール発行
7日	火	10月会費受付・「月の海」座席シール発行・手芸部
21日	火	11月会費受付
22日	水	11月会費受付
24日	金	11月会費受付
25日	土	11月会費受付
28日	火	前日作業・搬入
29日	水	日曜公演「月の海」13時開演・18時30分開演
30日	木	日曜公演「月の海」13時開演 搬出
11月		
4日	火	「月の海」まとめ会10時30分～・18時30分

編集後記

■秋はどこにいらっしゃるでしょうか？九月になっても、まだまだ夏……

■夏休みを十日間預いた、「登山私史」を思い出しながら書き始めた。そして驚いた。一五〇回の山行を数えた。山ほどの感動を預いた。そして若いうちの強さを噛みしめた。この作業がすこしでも「認知予防」になったのだろうか？ そんなことを心配する年になってしまった。

■連日三五度前後が続く大変な夏でした。地球温暖化の影響が世界中に異常気候となって人々を苦しめています。この先どうなるのかと少々心配です。秋も短そうです。紅葉を楽しめるかなあ？

■日本も四季から二季になるなんて言う人もいるけど小さくても「秋」を探して楽しみたいもの。

耳

■演劇や映画の数々が戦争の被害や加害を伝えているのに政治の体たらく！戦後八〇年九月、まだまだ暑い！竹

■猛暑に負けずに良い芝居を観て健やかな日々を過ごしましょう。

井田

■八月、大阪での文楽公演とPARCO劇場の三谷幸喜文楽、「人形ざらい」を観ました。文楽人形が渋谷まできてくれたのがうれしくも、文楽は人形遣いと太夫と三味線の三位一体のものなのだと強く思ってしまったのでした。

東谷



発行日 2025年9月25日

横浜演劇鑑賞協会

〒231-0011 神奈川県横浜市中区太田町6-75 関内北原不動産ビル503

TEL 045-227-5535 FAX 045-227-5609 メール yokohamainu@en.tokyo.ne.jp